平成 27 年度

えんネット

報告書

島根大学地域医療支援学講座内

えんネット について

しまね地域医療支援センターの委託をうけ、平成 26 年度より、島根大学医学部地域医療支援学講座内に両立支援の相談窓口 えんネット が設立されました。育児、介護などのライフイベントなどで働き方に悩みを抱えている方々がキャリアを継続できるよう支援いたします。

また、「働き続けたい」という意識を育てるために、学生時代からのキャリア教育や、すべての医師の働きやすい職場を目指した、就労環境支援、託児等に考慮した両立支援等を行っていきます。

目次

1.学生教育 1

・男女共同参画講義

・キャリアモデルを探しに行きませんか

・ランチョンセミナー

2.両立支援 9

・相談窓口

・セミナー託児支援

3.就労環境支援 11

4.終わりに 14

学生教育

男女共同参画講義

「えんネット」では医学生のうちから、男女ともに社会、家庭に参画する意識をもち、キャリアについて考える機会を設けるために平成 26 年度から男女共同参画講義を開始しました。

日時：平成 28 年 3 月 3 日（木）　10 時 15 分～16 時 00 分（3 時限～6 時限）

場所：島根大学医学部臨床大講堂

対象：島根大学医学部 4 年生

＜グループワーク＞

テーマ：「妻の海外留学について」

総括・討論　秋田大学医学部　総合地域医療推進学講座　　蓮沼　直子　氏

3 歳の子供を持つ核家族（遠方に祖父母あり）の医師夫婦の妻に半年の海外留学のチャンスがめぐってきた場合、夫婦でどのような選択肢が挙げられ、ベストと思うものは何か、その理由をグループワークしてもらいました。

・海外留学に行く（家族全員で　単身で　祖父母を連れて　実家に子供を預けて）

・留学を遅らせる

・留学をあきらめる

・国内留学を検討

・離婚　　と様々な意見がでました。別居しても skype で繋がれるといった今時らしい意見もでましたが、ベストと思うものは海外留学に行くという選択肢を挙げたグループが、16/17 でした。ディスカッションの中で、多種多様な考え方があることを学び、今まで考えてこなかったことに向き合えたようです。

＜キャリアモデルの紹介＞

・島根大学医学部　腫瘍・血液内科　　大西　千恵　氏

・島根大学医学部　小児科　　福田　誠司　氏

・島根大学医学部　発生生物学　　小川　典子　氏

＜取り組み紹介＞

・島根大学男女共同参画の取り組み

島根大学学長特別補佐（男女共同参画担当）　河野　美江　氏

・島根県「えんネット」の取り組み

島根大学医学部　地域医療支援学講座　　日高　美佐恵　氏

＜医師会講演＞

「日本医師会の取り組み～私達のやってきたこと～」

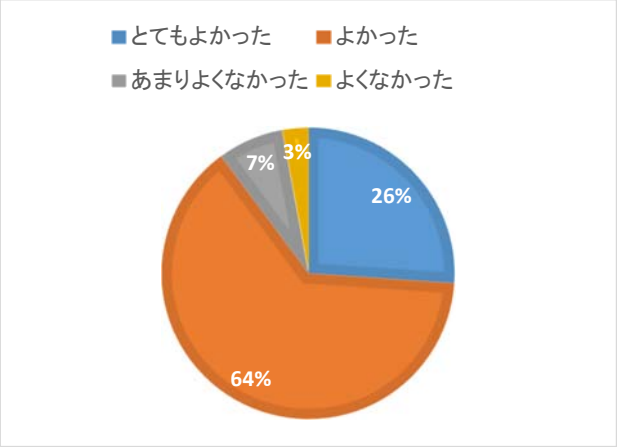
日本医師会女性医師支援センター副センター長　　保坂シゲリ先生

今年度も秋田大学総合地域医療推進学講座　准教授　蓮沼　直子先生をお招きし、医学部４年生を対象に男女共同参画講義を行いました。グループワークでは、ディスカッションを通して、多様性を学び、キャリアモデルの紹介では、先生方が、現在までライフイベントを経験しながら、どのようにキャリアを積んできたかお話をうかがいました。最後に、島根大学、島根県、島根県医師会の取り組みについて講演をいただき、１日を通して、近い将来の自らの働く姿や家庭人としての姿と向き合う機会となったのではないでしょうか。

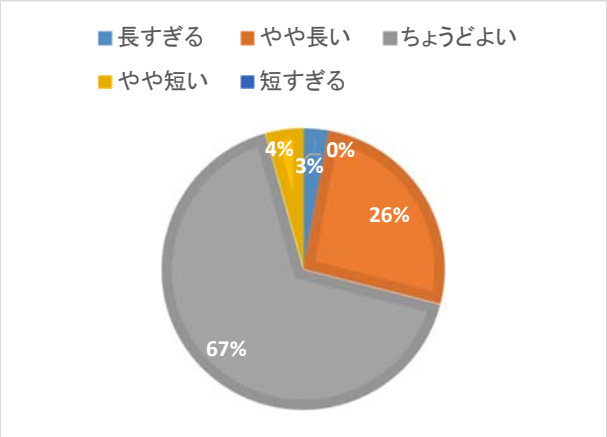
アンケート結果

１．グループワークについて

１）グループワークについて



２）グループワークの時間配分について

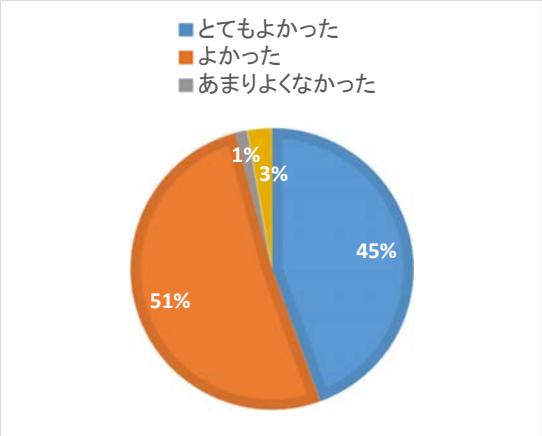


３）グループワークについて感じた事を自由にご記入ください。（一部抜粋）

正答があるわけでもなく、何を重視するかによって出てくる様々な考え方が面白いと思えましたし、また自分の考えにも自信を持ってよいものかもしれないと思えました。
男性と女性でやはり考え方は違うのだなと思いました。しかし、意外と男性で「仕事よりも家庭を優先したい」という人がいたので、社会の流れは変わってきているのだなと思いました。
選択肢はいくつか出したのですが、どれも良い面悪い面があり、なおかつ自分の親や、夫の状況もあったりして、決めるのがとても難しかった。
周りの意見が自分と全く異なり、違う考えを知るとても良い機会になりました。
男女差における考え方の違いや個人の生い立ちを通して、それぞれの価値観を知ることができた。

２．キャリアモデルの紹介について

１）キャリアモデルの紹介について

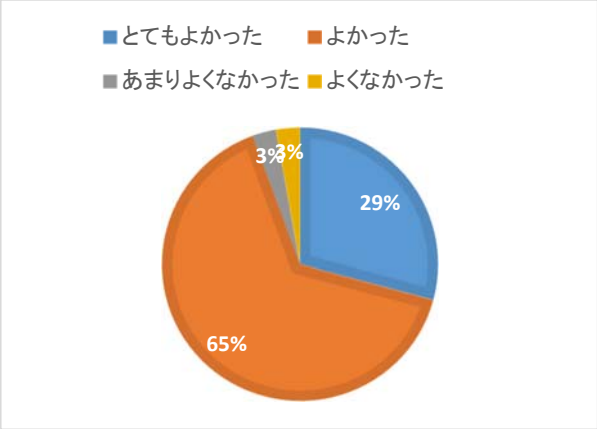


２）キャリアモデルの先生方のお話を伺って感じた事を自由にご記入ください。（一部抜粋）

男性の視点から話が聞けたことが良かったです。
自分や周りの人のキャリアを考える上で参考になりました。
先生方のお話がとても具体的で、時には失敗談もあり、先生方も人間なんだというのか、紆余曲折あったのだと感じました。ある程度の意志をもってこれからもがんばりたいと思いました。
どの先生も大変忙しい日々を送られているなと思うと同時に、どんな選択をしても苦労があることがわかりました。
人生は計画通りにはいかないということを体験を交えて聞くことができてよかった。
各々のキャリアモデルの紹介が実体験に基づいたもので、とても聴き応えがありました。
福田先生のご自身の留学と奥様の留学中のキャリアアップの紹介もとても参考になって良かったと思います。
将来結婚した時の事などについて、自分の仕事のことだけではなく、家庭で担うべき役割等について少し具体的にイメージできたことがすごく良かったです。
子育てをしつつキャリアアップもされていて、自分の選択肢の幅も広がったような気がします。
先生方の具体的な経歴が伺えて、自分の将来について考えてみるきっかけになれた。
先生方の実体験に基づいた貴重なお話をたくさん聞くことができて、とても参考になりました。
本音で話されていて良かったと思います。
自分の将来のキャリアを考える上で参考になりました。
小川先生のプレゼン内容には常に私も思っている内容ばかりでとても興味深かったです。男女の違いをサイエンティフィックに皆に紹介していただきありがとうございました。
人生本当に思いもよらぬ事があるものだなと感じた。
様々な立場の先生から自分の経験などが聞けてよかったと思う。
実体験に基づいており、参考になりました。
人生色々なのだなあということと、大切な人に出会えることはすごく大切なことだなと思いました。
色々な先生の実際を知ることができ、ためになりました。

３．今回の講義全体について

１）男女共同参画について



２）上記と答えた理由をお書きください。（一部抜粋）

自分の将来を改めて考えるきっかけになりました。
このような話を聞いて学ぶ機会があまりなかったため。
今の状況に合った生き方を選択する手もありますが、より良い社会にするため男女問わず考え、行動していくことが大切だと感じました。
上級職に女性が就くのを増やすべきというのに共感しました。
秋田大学の先生がおっしゃっていた「できる」という言葉の反対は「しない」というのがとても印象的でした。どうせできないと決め付けて「しない」事が一番良くないのだなと思いました。
働き方についての参考になった。
具体的な例をいくつも知ることができて良かったです。
女性医師の卒後の働き方などを聞く機会が今まであまりなかったので、参考になりました。
まだまだ男性が多い上層部ですが、女性の方からも働きやすい環境づくりのための働き方が大切だと聞いて刺激をうけました。
誰でも働ける職場をつくっていけたらなと思いました。
将来、仕事の事以外についてしっかり考えることがなかなかないので、とても良い経験、きっかけになりました。
将来働きやすい社会の形を考える良い機会になりました。
本学の取り組みを知る機会となりました。
そうした取り組みが色々あると知れたから。
自分の将来の選択肢が広がったと思います。
実現することは難しくても、少しずつ考えていくことが必要だと思った。
このような講義を聴けることはほとんどないので、女性医師の先輩のお話を聞けてよかったです。
いつもと異なる現実的な話が聞けた。
女性医師の先生方のお話を聞けてとても参考になった。

キャリアモデルを探しに行きませんか

従来、地域医療支援学講座で行っていた、自主企画型実習の一日を、医師に密着して行う「医師密着型実習」を始めました。

医師の一日を共に過ごすことで、医師がどのような生活の背景を持ちながら仕事を行っているかを体験してもらい、将来の自分の医師像や家庭人としての姿に向き合ってもらうことを目的としています。

参加した学生さんからは「今までぼんやりとして考えていなかった将来をより具体的に考えるようになった。」「将来に漠然と不安があったが、その不安が軽減した。」といった意見が聞かれました。実習をうけてくださった先生方からも、「貴重な経験になった」と協力的な意見をうかがうことができました。

ランチョンセミナー

地域医療支援学講座では以前から、1 回/月程度、昼休みの時間を利用して、お弁当を食べながら、先輩方を中心に、今まで進んでこられたキャリアについて話をしていただいています。今年度は、北海道札幌市手稲渓仁会病院　臨床研修部　教育担当責任者　Shadie Constantineshadia 先生から海外の女性医師の先生の、キャリアの選択を聞く機会もありました。

さぽっと cafe

12 月 22 日（火）17:00～18:00、島根大学男女共同参画推進室「さぽっと」の主催で、「さぽっとカフェ in 出雲　～女性医師と女子医学生の交流会～」が開催され、えんネットのメンバーも参加いたしました。

軽食を食べながらの和やかな雰囲気の中、「学生のうちにやっておいた方がよいことは」「将来の結婚が不安です」等々、率直な意見交換が行われました。

医学部では初めての試みでしたが、学生が今どんな事を不安に感じているのか、また他の医師の働く話を聞き、医師、学生だけではなく、医師同士の良い交流の機会にもなりました。

研究発表

第 47 回日本医学教育学会

日時：7 月 24 日～25 日

場所：朱鷺メッセ　新潟コンベンションセンター

演題名：島根大学医学部でのキャリア教育の試み

発表者：日高　美佐恵

ポスター発表：右記参照

1. 序論

【目的】

医学生に対するキャリア教育の効果を検討する。

【背景】

現在、医学部における女性の割合は3分の1を占め、本学では4割にのぼる。医師不足が問題になっている現在、育児に関わらず、制約がある環境の中でキャリアを継続する事は男女関わらず重要である。今回は秋田大学医学部において先進的に行われている教育プログラムを参考にし、本学医学部4年生にキャリア教育を行った。

2. 方法

【対象】

島根大学医学部4年生116名のうち、講義出席者107名

【方法】

法政大学キャリアデザイン学部で開発されたCareer Action-Vision Test（以下CAVT）を一部改定し利用、さらに男女共同参画の意識、講義の評価に関する項目を追加し調査表を作成した。
1回目の記入は講義の前に行い回収し、2回目は講義の後で回収した。CAVT、男女共同参画に対する意識、講義の評価はいずれも正規分布に従わず、ノンパラメトリックの手法を用い検定した。

〇講義内容：午後からの3講義（270分）

1. グループワーク（30分）・発表（25分）・討論（30分）
   テーマ「妻の海外留学について」　7～8名の15グループ
2. キャリアモデルの紹介（20分×3）
   ・留学経験のある男性医師（妻が女性医師）
   ・育児にひと段落した市中病院の女性医師
   ・現在育児中、研究、臨床に従事している大学の女性医師
3. まとめの講義（20分）
   秋田大学医学部総合地域医療推進学講座　准教授　蓮沼　直子先生
4. 島根県内のキャリア支援・ワークライフバランス支援の取り組み（60分）
   ・島根大学医学部附属病院ワークライフバランス支援室
   ・島根県の取り組み
   ・島根県医師会の取り組み

〇調査票

・CAVT

あなたは、今後、どのようにしたいと思いますか 当てはまる箇所に〇をつけて回答してください	そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない
1将来のビジョンを明確にしたい	5	4	3	2	1
2学外の様々な活動に熱心に取り組みたい	5	4	3	2	1
3将来の夢をはっきりさせ目標を立てたい	5	4	3	2	1
4尊敬する人に会える場に積極的に参加したい	5	4	3	2	1
5将来、具体的に何をやりたいかを見つけたい	5	4	3	2	1
6人生に役立つスキルを見つけたい	5	4	3	2	1
7将来に備えて準備したい	5	4	3	2	1
8様々な人に出会い人脈を広げたい	5	4	3	2	1
9将来のことを調べて考えたい	5	4	3	2	1
10何事にも積極的に取り組みたい	5	4	3	2	1
11自分が本当にやりたいことを見つけたい	5	4	3	2	1
12様々な視点から物事を見られる人間になりたい	5	4	3	2	1

・男女共同参画の意識

あなたは、結婚、育児、介護についてどのように考えていますか 当てはまる箇所に〇をつけて回答してください	そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない
13夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである	5	4	3	2	1
14出産後は可能なら相手に育休を取って欲しい	5	4	3	2	1
15結婚したら自分のキャリアを優先したい	5	4	3	2	1
16結婚したら相手のキャリアを優先したい	5	4	3	2	1
17育児・介護が必要になった場合、働き続ける自信がない	5	4	3	2	1
18できる限り仕事と家庭の両立を目指したい	5	4	3	2	1

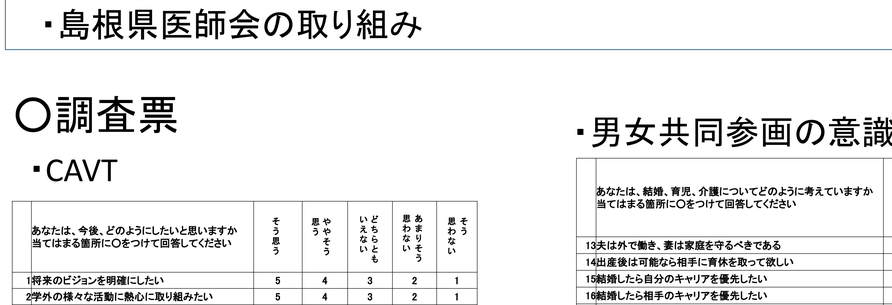
・講義の感想

当てはまる箇所に〇をつけて回答してください	そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない
19今回の講義は将来の参考になり得る	5	4	3	2	1

3. 結果

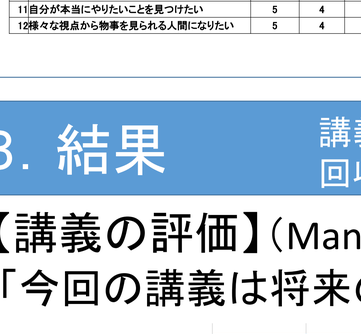
講義出席者107名のうち回答者98名（男性59名　女性39名）
回収率:91%

【講義の評価】（Mann-Whitneyの検定）
「今回の講義は将来の参考になり得る」　男　女



【CAVT（一部改変）】（Wilcoxonの検定）

・講義前のCAVT



医学生のCAVTscoreは高かった

・講義前後のCAVT変化

Action、Vision共に上昇した

まとめ

【結論】

今回のキャリア教育は短期的効果が認められた。

講義前後でのCAVTscoreが有意に上昇した。
男女共同参画に対する意識が講義前後で男女ともに変化した。

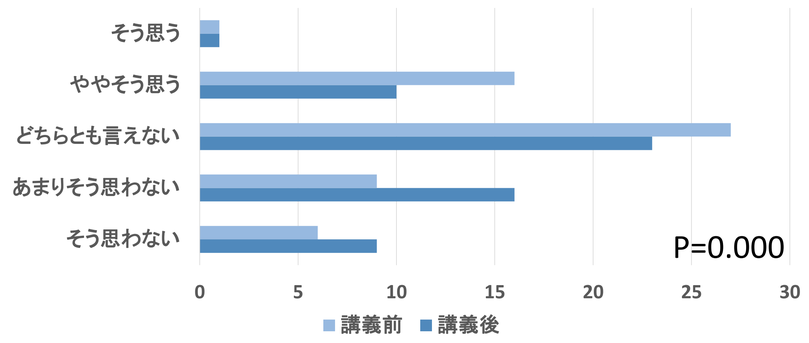
4. 結果

【男女共同参画に対する意識】（Wilcoxonの検定）

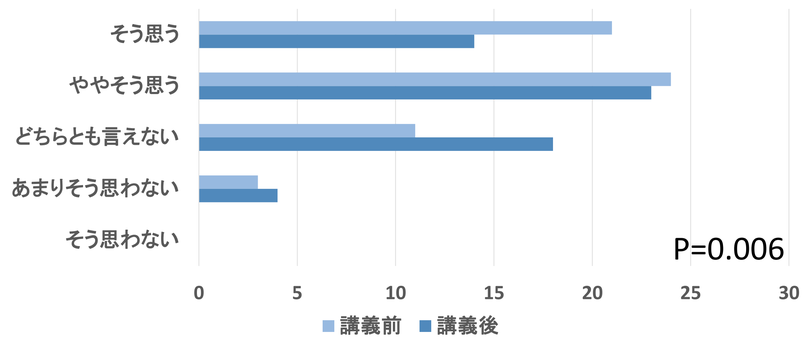
・男子学生は3項目、女子学生は2項目において講義前後で有意差を認めたが、それぞれの項目は異なっていた。

・6項目中1項目は男女ともに講義前後での有意差は認めなかった。

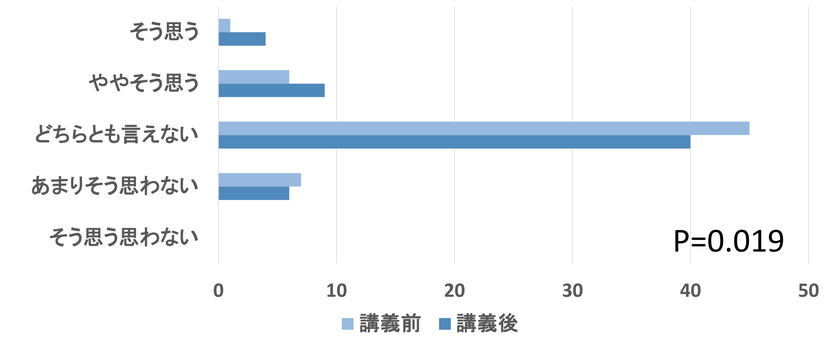
「夫は外で働き妻は家庭を守るべきである」



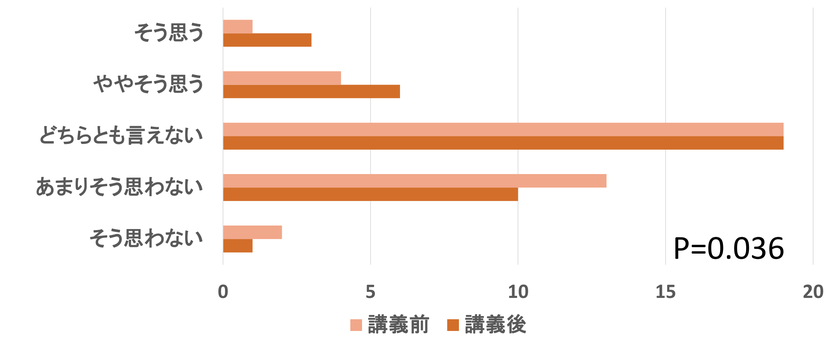
「出産後は可能なら相手に育休を取って欲しい」



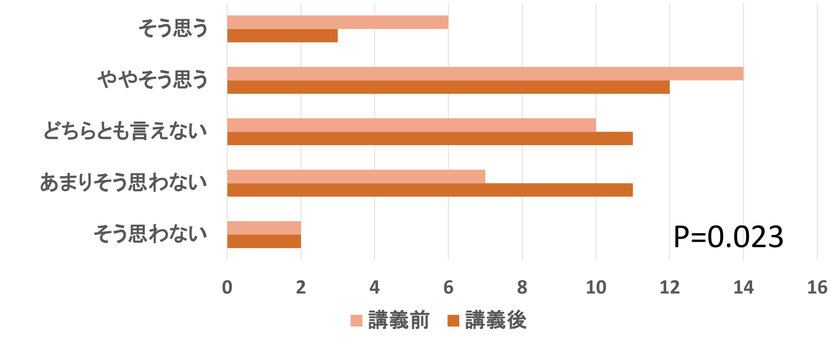
「結婚したら相手のキャリアを優先したい」



「結婚したら自分のキャリアを優先したい」



「育児・介護が必要になった場合、働き続ける自信がない」



男子学生

女子学生

【引用文献】
・下村英雄・八幡成美・梅崎修・田澤実　2009　大学生のキャリアガイダンスの効果測定用テストの開発　キャリアデザイン研究,5,127-139

日本医学教育学会大会COI開示　筆頭発表者　日高　美佐恵

演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業などとして、
・寄附講座所属　あり（島根県）

両立支援

相談窓口

えんネットでは現在の働き方に悩みを抱える方のための相談窓口を設置しております。個々に応じた復職への相談も受け付けております。専門科に応じた対応が必要な場合は、支援担当員としてご協力いただく、専門科の先生に相談を受けることも可能です。どんなことでもお気軽に相談ください。

平成 27 年度　相談実績

相談件数　　延べ 18 件　　（相談人数　10 名　復職　1 名）

広報

＜広報誌＞

えんネットでは 1 回/年、広報誌を発行しています。今年度は島根大学医学部附属病院の先生方と行った座談会の模様を掲載しております。育児だけでなく、介護等働く上でどのように考えキャリアを積んで来られたか、本音で語り合いました。

＜HP＞

HP の更新　随時

http://www.en-net.jp/

＜メディア＞

日時：平成 27 年 11 月 4 日（水）　　21:54～

TSK　山陰中央テレビ「情報広場　もっと×もっと　しまね」

～島根の医師支援　えんネット～

セミナー託児支援

・家庭医療ワークショップ

日時：2015.5.23　場所：ニューウェルシティ

・ブラッシュアップ講習会　in　浜田

日時：平成 27 年 7 月 11 日（土）　場所：浜田医療センター

・第 3 回全国シミュレーションスペシャリストセミナー

日時：平成 27 年 10 月 10 日（土）

場所：島根大学医学部附属病院スキルアップセンター

・ブラッシュアップ講習会

日時：平成 27 年 11 月 14 日（土）　場所：島根大学医学部国際交流ラウンジ

・第 2 回医師事務作業補助者研修会

日時：平成 28 年 1 月 23 日（土）　場所：ホテルニューウェルシティ出雲

・精神科医キャリアアップ支援ネットワーク研修会

日時：平成 28 年 1 月 30 日（土）　場所：松江テルサ

・第 1 回島根 PTLS(Primary-care Trauma Life Support)コース

日時：平成 28 年 2 月 13 日（土）～14 日（日）

場所：島根大学医学部みらい棟、スキルアップセンター

就労環境支援

「働きやすい病院づくり研修会」および「医療従事者支援担当者研修会」

働きやすい職場環境を整備するための講演を前半の部で、後半は、離職防止や再就業の促進に関する具体策を考えるグループワークを開催しました。

日　時：平成 27 年 10 月 9 日（金）　13 時～16 時 30 分

場　所：ニューウェルシティ出雲　銀河の間　（出雲市塩冶有原町 2-15-1）

参加者：25 名

講演

・「東京都医療勤務環境改善支援センターにおける
平成 26 年度の導入支援実績と平成 27 年度の事業計画」
日本医業経営コンサルタント協会　東京都支部　理事　眞鍋　一　氏

・県内病院の現状分析シート・調査結果報告
島根大学医学部地域医療支援学講座　特任助教　日高　美佐恵　氏

グループワーク

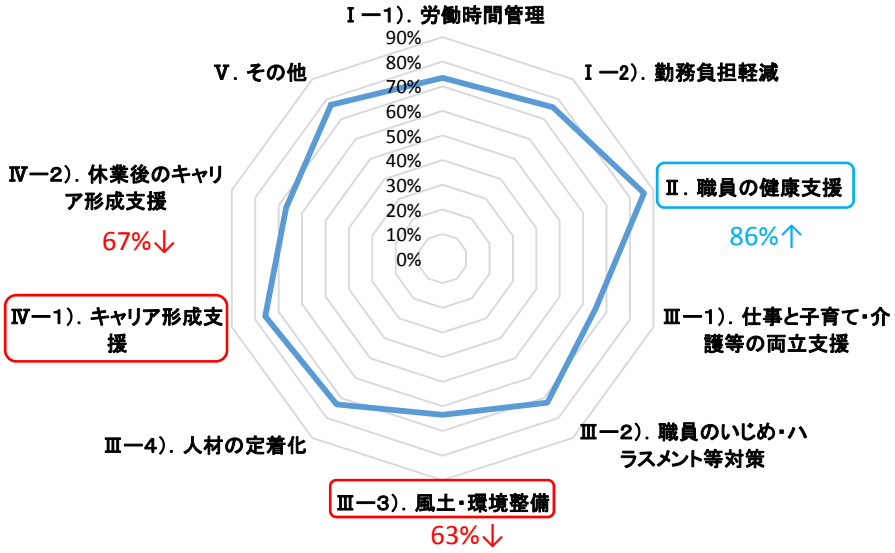
・テーマ
「ワークライフバランスを考える」

「職員定着度に関する課題と改善策」

講師：日本医業経営コンサルタント協会　医業経営アドバイザー　　谷　進二　氏

今年度は島根県医療勤務環境改善支援センターが開設され、各医療機関においても、計画的に勤務環境改善に取り組む仕組みを導入することが期待されております。今回の研修会は「勤務環境改善マネジメントシステム：現状分析シート」（下記 HP 参照）を利用して、事前に自施設を評価いただき、県内の平均（下図）と比較することで、実際に自施設の勤務環境改善に興味を持って取り組んでいただきたく、企画いたしました。講演では実際に島根県での支援を担当してくださる医業経営アドバイザーの先生方を講師としてお招きし、その後はテーマについてグループディスカッションを行いました。自身の結果を県内と見合わせて、人材の定着化では県内では高い順位だが、逆に定着率が高く、職員の高齢化に頭を悩ませていたり、看護学生等へのセミナー等が実を結び、新規採用が増加している病院の取り組みが聞けたりと県内の医療機関での様々な取り組みを意見交換しました。

【島根県 23 病院の平均値】



調査期間　平成 27 年 9 月

調査対象　島根県内の病院　51 病院

回収率　45%　23/51 病院

HP では様々な医療機関での取り組みが紹介されています。

http://iryou-kinmukankyou.mhlw.go.jp/

厚生労働省

医師事務作業補助者研修会

医師の負担軽減に有効とされている、医師事務作業補助者の県内でのレベルアップをはかるため、県内の医師事務作業補助者が一堂に会し、ネットワークの構築や現状と課題を共有、検討するための研修会は今年度で２回目を迎えました。

日時：平成２８年１月２３日（土）１３：００～１６：３０

場所：ホテルニューウェルシティ出雲　銀河の間

参加者：62 名

（１）講演

ＮＰＯ法人　日本医師事務作業補助者研究会　理事長　矢口　智子　氏

（２）県内の取組み紹介

「浜田医療センター」

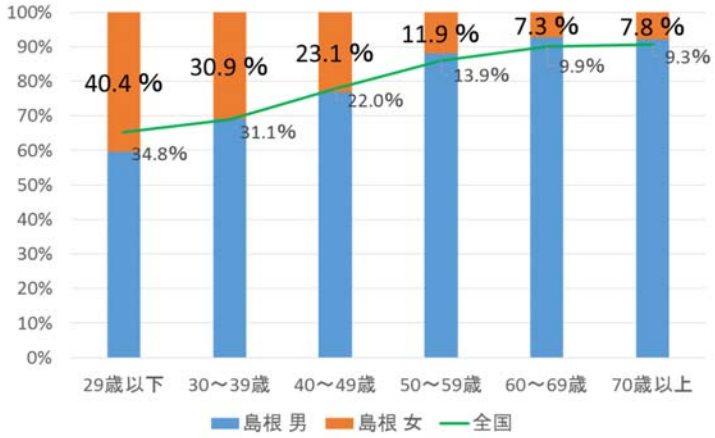
「松江赤十字病院」

「飯南病院」

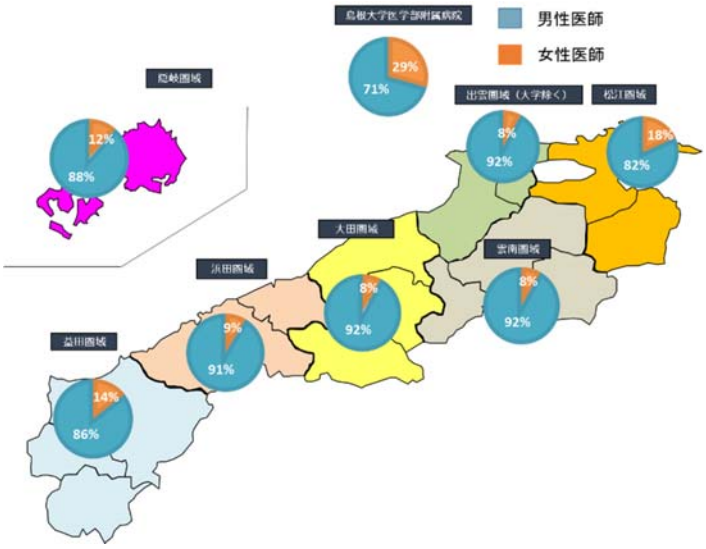
（３）情報交換会

終わりに

島根県と全国の女性医師の割合の年代別の比較



島根県内の男性医師・女性医師の割合



平成 24 年の医歯薬調査の結果が公表され、全国の医療施設に勤務する女性医師の割合 20.4%と初めて 2 割を超えました。島根県も 19.4%とほぼ全国平均並みですが、年代別に見ると 29 歳以下では島根県 40.4%、全国 34.8%と全国平均を上回っており、今後も島根県では女性医師の割合が、全国平均よりも比して増加してくことが予想されます。左図のように地域ではまだまだ女性医師の割合は少ないのですが、邑南町では女性医師を呼び込み、働きやすい環境をつくるために、地域の保育力を利用し、住民の家で夜間も保育を入れる試みが始まりました。「えんネット」の相談窓口にも、復職を希望する女性医師の相談も見られるようになり、今後も女性医師の育児支援は必要不可欠と考えます。ただ医師の過重労働は変わらずにあり、女性医師・男性医師が、仕事、家庭人として同じように参画できるにはまだまだ時間がかかるといえます。今年度は島根医療勤務環境改善支援センターも開設され、医療勤務環境の改善に関する取組みを支援する体制もできました。職場風土を変えるには、管理者、またはそこに勤務する医師等の意識改革も必須であり、「えんネット」では今後とも協力して、島根県の両立支援、就労環境支援に取り組んでまいりたいと思います。引き続きよろしくお願いいたします。

平成 27 年度　ワークライフバランス推進事業報告書

発行　　島根大学医学部地域医療支援学講座

〒693-8501　島根県出雲市塩冶町 89-1

Tel：0853-20-2396

E-mail：en-net@med.shimane-u.ac.jp